

7がつのくもの子の会だより

<H.25.6.28>

今年、梅雨入りして雨が少なくカラ梅雨のようでしたが、最近になって、雨っ引きで、梅雨らしくなりましたね。雨が降ると、すずしく感じられますが、二んどは雨がながくつくと、洗ったものがかわかない、家の中のあちこちがじとじとしてカビが……と、うろいと悩ましてしまうこともでてきますね。つとたん梅雨あけが待ち遠しくなりそうですわ。7月、夏本番となり、厳しい暑さかや、てきます。暑さとうまくつきあていたいものです。今月も子どもらもパワフルに、あそびまわって叱ることでしょ。ママたち、大人側も負けられませんわ。できれば叱りたくない。でも、しっかりと、言、て、き、か、せ、る、べ、き、場、面、は、毅然とビシッ！も必要です。き、と、子、ど、も、の、姿、勢、も、変、わ、り、ま、す。

—「ガミガミ」は効果がない！—

波多野ミキ(波多野スピリタス理事長)

きびしく叱るというのはどういうことでしょうか？ 大声でガミガミ言うのは、きびしい叱り方でしょうか？ そうではありません。親のイライラの感情をぶつけているだけ。大声を出されたら、その時は、子どもはビクビクとして言うのをきくかもしれませんが、叱った効果はないので、同じことをします。そして、また親が大声を出す、というくり返しです。子どものほうは、そのうちに慣れてしまって、「また何か言ってる、程度にかんがわなくなってしまうのです。

効果的に叱りたいのなら、遠くから大声で言うのではなく、側に行って、肩に手をかけて、目を見て、「どうしていけないのか」を静かに言、て、聞、か、せ、る、こ、と、で、す。

叱るだけではダメです！
我慢できた時の「ごほうび言葉」

ただきつく叱り、我慢させるだけでは子どもは何も学べません。わかまを減らすには、叱った後にどうほめるかがポイントです。

子どもの成長を祝う日本の年中行事七五三をもじって「三つ叱って、五つほめ、七つ教えて、子は育つ」ということです。

ほめることは相手を認めることです。子どもは親に認められることで、自分の力を信じるき、か、け、に、な、り、ま、す。何かを我慢できた時にほめらるる。ごほうび言葉をもらうと、子どもはさらに努力するようになります。その子の良いところをどんなに伸ばしていきます。そして、何か一つが伸びてくると、それが自信となり、他のことにも良い影響を及ぼし、ダメなところも良い方向に持、て、い、く、こ、と、が、で、き、ま、す。

ほめるはアクセル、叱るはブレーキ。ほめ上手にして叱り上手です。 <秦野悦子(伯爵令嬢 大学教授)>



◎7月26日は、午前中は、クラブ活動室でリズム活動などしたあと、午後から、小森家の庭にて、どうめん流し大会のイベントを予定しています。

くもの子の会のこのイベントは、子どもはもちろん、大人もとてもたのしめるので、どうぞおたのしみなさい！！

午前の会費を別に、イベント参加費を徴収させていただきます。

(2才300円、3才~6才500円、小学生~大人700円、マイおんぼろもってきなさい)